

生きものいっせい調査 2018 について【指導用資料】

沖縄は生物多様性(たくさんの生きものが、いろんな環境に生息し、個性的である)のとても豊かな島です。ところが最近、もともといた生きもの(在来種)が減り、よそから来た生きもの(外来種)が目につきます。在来種は本当にいなくなったのでしょうか?外来種はどこまで広がっているのでしょうか?こんな、身近な自然の変化をみなさんに調べてもらおう!というのが「生きものいっせい調査」です。昔、アオカナヘビ(方言名:ジューミー)は、沖縄島では家の近くで見つかる身近な生き物でしたが、最近では減っているといわれています(みなさんは見たことありますか?)。こうした生きものが今どうなっているかを知ることで、身近な自然の変化について新しい発見があるかもしれません。

今回アンケートをお願いする生き物について簡単にまとめました。先生方が、子どもたちから生きものについて聞かれた場合の参考にして下さい。

1. アオカナヘビ類

方言名: ジューミー、アンダチュー、マースケーなど

概要: アオカナヘビがトカラ列島、奄美大島、沖縄諸島、サキシマカナヘビが八重山諸島、ミヤコカナヘビが宮古諸島に分布し、いずれも固有種。アオカナヘビのオスは茶色っぽい緑色で、体側がこげ茶色。メスと子どもは全身緑色。体側に白線がある個体が多い。サキシマカナヘビ、ミヤコカナヘビは体側の白線はなく、雌雄ともに緑色。アオカナヘビは約 25cm、サキシマカナヘビは約 30cm、ミヤコカナヘビは約 20cm。しっぽが長く、しっぽを押さえるとすぐに根元から切れてしまう。切れたしっぽはしばらく動くので、アオカナヘビの捕食者はそっちに気を取られてしまい、本体は逃げおおせる。サキシマカナヘビは環境省 RDB(2018)で絶滅危惧Ⅱ類、沖縄県 RDB(2017)で絶滅のおそれのある地域個体群(小浜島、黒島)、ミヤコカナヘビは環境省 RDB(2018)で絶滅危惧ⅠA 類、沖縄県 RDB(2017)で絶滅危惧ⅠB 類。これまでの生きものいっせい調査で、減少が著しいと思われていた地域でもまだ生息地が残っていることがわかってきている。特にミヤコカナヘビについては、生きものいっせい調査をもとに琉球大学が調査を実施し、新たな生息地の発見につながった。

食べ物: 昆虫やクモなど。

生息環境: 森の林縁や畑、草地、屋敷地などの樹葉上や草本、つるの上など。御嶽(うたき)。

似ている生き物: キノボリカゲ類、グリーンアノール

2. キノボリカゲ類

方言名: アタク、アーナー、アササー、クエー、アハカーなど

概要: オキナワキノボリカゲが奄美諸島、沖縄諸島、サキシマキノボリカゲが宮古諸島、八重山諸島、ヨナグニキノボリカゲが与那国島に分布し、いずれも固有種。体長 16~25cm。手足やしっぽは細長い。体表はザラザラしている。オキナワキノボリカゲのオスは緑、メスはくすんだ緑で子どもは茶色。サキシマキノボリカゲとヨナグニキノボリカゲは個体により色の違いが大きい。いずれの種もしっぽが緑と茶色のしましま。周囲に合わせて体色を変化させる。アオカナヘビよりも顔が角張って、頭や背中の中うろこがキザキザ。オス同士がケンカをするときは腕立て伏せのような動きをする。木の幹をらせん状に登って逃げる習性がある。オキナワキノボリカゲは環境省 RDB(2018)、沖縄県 RDB(2017)ともに絶滅危惧Ⅱ類、サキシマキノボリカゲは環境省 RDB(2018)、沖縄県 RDB(2017)ともに準絶滅危惧種、ヨナグニキノボリカゲは環境省 RDB(2018)で絶滅危惧Ⅱ類、沖縄県 RDB(2017)で準絶滅危惧。

食べ物: 昆虫やクモなど。

生息環境: 下草のない自然林や、林縁部や人家付近の人工林など開けた場所。樹上性。

似ている生き物: アオカナヘビ類、グリーンアノール

3. グリーンアノール

方言名: 特になし

概要: 体長 12~20cm。背中はあざやかな緑色のものが

多いが、茶色いものもいる。周囲に合わせて体色を変化させる。あごの下やおなかは白い。目の周りがアイシャドウのように青い。オスはのどにピンクののど袋をもつ。目が良く、数m離れた昆虫類も見つけて捕食する。日本の侵略的外来種ワースト100。また特定外来生物に指定されており、飼育や移動が禁止されている。

食べ物: 昆虫や小型のは虫類など。

生息環境: 樹上性。林縁部や民家の庭木、低木林、畑の周辺など。日中は日当たりのいい場所で日光にあたり、夜間には樹木の枝や葉の間などで休息する。

似ている生き物: アオカナヘビ類、キノボリカゲ類

4. コセンダングサ類

方言名: ムツフサギー、ムチーラ、サシクサ、サシグサ、サシなど

概要: キク科の熱帯アメリカ原産の外来種。アワユキセンダングサ *Bidens pilosa* var. *bisetosa* はコセンダングサ *Bidens pilosa*の変種で、葉が5枚の複葉になるものをタチアワユキセンダングサ *Bidens pilosa* var. *radiata*(日本の侵略的外来種ワースト 100)とすることもある。県内にはタチアワユキセンダングサが多いとされる。コセンダングサにはほかにもシロバナセンダングサ *Bidens pilosa* var. *minor*など複数の変種がある。ただし、文献によって名称が異なっているなど、変種の分類には混乱がみられる。

生息環境: 林縁や空き地など。

5. シロガシラ

方言名: 特になし

概要: 全長約 18.5cm。沖縄島、及びその周辺離島に分布するシロガシラは、飼育個体から逸脱し野生化した亜種タイワンシロガシラと考えられている(日本の侵略的外来種ワースト100)。近年、農産物への食害が問題視されている。八重山諸島には在来のシロガシラが生息する。

食べ物: 果実、種子など。

生息環境: 草原、農耕地、村落、低木林など。

似ている生き物: 特になし。

6. アオスジアゲハ

方言名: ハーベールー(チョウ類・ガ類の総称)

概要: 県内全域に広く分布する。前翅長は約 47mm。雌雄に形態の差はあまりないが、雄の基部に白い毛があるので区別できる。動きは俊敏で一つの花に滞在する時間も短い。給水時は長時間一箇所にとどまる。給水時は群れを作る傾向があり、群れをなすと警戒心が薄くなりかなり近づくことが出来る。

食べ物: 花蜜。幼虫期はクスノキ・タブノキの葉など。

生息環境: 森林、公園等の緑地、水辺など。

似ている生き物: ミカドアゲハ。前翅外側の青い斑紋の有無で判別が可能。

7. ヒラタクワガタ類

方言名: ハサマー(クワガタの総称)

概要: 概要: 県内には 3 亜種が分布する。分布・形態は以下。

・沖縄島、及び周辺離島

オキナワヒラタクワガタ 体長 24mm~71mm

・八重山諸島

サキシマヒラタクワガタ 体長 25 mm~80mm

・南北大東島

ダイトウヒラタクワガタ 体長 20 mm~58mm

絶滅危惧Ⅱ類(環境省 RDB 2018、沖縄県 RDB 2017)

体型は平べったく、体色は黒から黒褐色である。オスの大アゴは太く平べったい。根本にある大きな内歯が一对とノコギリ状の小歯を持つ。低地から山地まで広葉樹や照葉樹の森林に生息している。湿度の高い環境を好み、河川近くの林などに多く生息している。成虫は夜行性であり、樹液を餌としている。アカメガシワやタブノキに多い。木をけると落ちてくるかも。

食べ物: 樹液。幼虫期は菌糸やオガクズ、腐葉土など。

生息環境: 湿度のある森林、低木林、耕作地周辺など。

似ている生き物: ノコギリクワガタ。顎や頭の形状から判別が可能。

8. ナナホシキンカメムシ

方言名: 不明

概要: 沖縄島、南大東島、石垣島、西表島に分布。体長18～20mmの大型のカメムシ。金属光沢の強い緑色。胸部の背側に4個の黒色斑がある。腹部の背側に3対の黒色斑と尻の方に1個の黒色斑があり、計7個の斑があるためナナホシと呼ばれるが、尻の方の斑がない個体もあり、斑の出方に個体差がある。脚の付け根に近い部分は赤色でその先は青黒色。成虫は7月頃にもっとも多い。幼虫は成虫より丸みがあり、体色は成虫同様に光沢のある緑色だが、翅がなく腹部に赤色の模様が出る。カンコノキ類やタイワンツルグミの葉でよく見られる。多くの個体が群れているのがよく見られる。

食べ物: 果汁

生息環境: 森林、公園等の緑地など

似ている生き物: ミヤコキンカメムシ。ナナホシキンカメムシ同様金属光沢のある緑色のカメムシだが、ひとまわり小さく黒斑がない。

※ タブノキ

方言名: トウムギー、トウムン、ハサーギ、コーガー、アハタブ、アラブトウムヌ、カオキ、コウーギー、コーギ、シバキ、タブキ、タブヒーキトモンなど

概要: 県内全域に広く分布する。クスノキ科。広葉樹や照葉樹が茂る森林の暗部にて生息する。ヒラタクワガタ類が樹液に集まり、またアオスジアゲハの食草でもあるため、他の候補種との関係性を知る上でも重要な種となる。4～6月に果実が黒熟する。春先に赤い新芽を出す。

生息環境: 広葉樹や照葉樹が茂る森林。

似ている生き物: 特徴的な樹種ではないため、新芽や果実の季節でなければ同定は難しいと思われる。